



妹

全作品と講評

www.columnland.net



妹が欲しいと
か言う奴は妹
の現実での恐
ろしさを知ら
ない幸せ者で
ある。

一方僕は優しいお姉ちゃんが欲しい。

「妹を持つ者の意見」

妹

マイ

いもうと

(漢語) バイ・(呉語) マイ

〔字義〕①いもうと。年下の女性きようだい。一般に家での実権を握っており、実質その兄たる者はその者には逆らうことは許されていない。もし逆らおうものならば、容赦ない罵詈雑言を浴びせられ、立ち直るには時間がかかる。②空想上の生物。兄にべつたりして、「お兄ちゃん」と兄のことを呼ぶ。その兄は一定の優位性を持っており、その中でも慕われていることができる。もし現実はこの生物が現れた場合、それは天変地異の予兆か、大きな出費の予兆である。



「妹がバカでさ、こないだ一緒に喫茶店に行ったんだけどさ、その時あいつ『アイスコーヒーのホットください』って言ったんだよ。店員に聞き返されてから言い間違えたことに気付いたらしくて、『すみません。ホットで……』って顔を赤らめて謝ってんの。おかしかったわ」

「なんか妹かわいいね」

「かわいい……っていうか、ただのバカだね」

「でもそこがかわいいじゃん。妹の顔はどんな感じなの？」

「なんか割と子どもっぽいよ。童顔だし」

「やばい。俺の中で妹がめっちゃかわいいイメージなんだけど。髪型とかは？ストレーターのロングヘアーだったら最高だな」

「髪型？坊主だよ」

「えっ？」

「野球部だからな」

「えっ!？」

「そうか、お前は知らないのか。妹は隣のクラスの井元ってやつのおだ名だよ。がたいの良いやつな」

「…他に、好きな人が出来たの。だから、ごめんなさい。別れて」
 なんとなく、そんな予感ほしていた。電話で、「話がある」と言われた時から。こういうことは何度かあったが、いつもこの流れだった。

「…ああ」

それでも、分かっているも心は慣れず、小さな声でたった一言、そう言うのが限界だった。

「ごめんなさい…明日のデート、本当に楽しみだった!」

そう言って彼女は、走り去った。その頬に一瞬光るものが見えたのは、きつと未練がましい心が創り出した幻想だろう。

「…はあ。これで、5回目か…」

崩れるようにベンチに座り、溜息を吐いて空を見上げる。鮮やかなオレンジの空は、晴れているのに少し滲んで見えた。

「あゝにきつ♪ どうしたのそんなに落ち込んで」

ドアが音をたてて開いた。妹の奈央が入ってきたようだ。

でも、今は相手をする気にならない。無視していると、ベッドサイドにやってきた。そして不意に体が温もりに包まれる。温もりに包まれていると自然と気持ちが落ち着いてきて、情けないと思いつつも、しばらくそのまま動かなかった。

気持ちが落ち着いて一番に、俺は奈央に謝った。奈央は「気にしてない」と言いつつも、

「でも、もしそういう気持ちがあるなら、明日、これと一緒に帰ってくるの?」

そう言って目の前に出されたのは、机の上にあつた有名デパートと系列ホテルのペアチケット。明日、彼女と使う予定だったものだ。どうせ無駄にするくらいなら、奈央と一緒に帰った方がいい。俺は快諾した。

「やった〜! 約束したからねっ!」

子供みたいに喜ぶ奈央に思わず頬が緩む。すると、不意に奈央が真剣な表情をして、深呼吸。そして、

えっ、と困惑している俺に奈央は囁く。

『つづき』は、また明日ね。」

それだけ言うと奈央は「おやすみっ!」と言って部屋を出ていってしまった。

俺は何が何だか分からず、そのままベッドに倒れこんだ。

「…他に、好きな人が出来たの。だから、ごめんなさい。別れて」

女の声が、木陰から様子を見ていた私の耳にも届いた。その後の兄貴の言葉は聞き取れなかったけど、女が走り去ったのを見るに、どうやら無事別れたらしい。私は携帯を取り出し、リダイヤルボタンを押す。相手は、すぐに出た。

「もしもし! 約束は守ったわ! だからあの写真を早く…」

「いいえ、約束違反よ。『明日のデート、本当に楽しみだった!』なんて言う事、一体いつ許可したかしら?」

一方的に電話を切る。すぐに電話は着信を告げるが、当然無視。

「ゴメンね、兄貴。でも、兄貴の為なんだよ」

私は空を見上げた。綺麗なオレンジの空が、どこまでも広がっている。

「また彼女にフラれたの?」

明るい声で部屋に飛び込んだが、返事はなし。兄貴は腕で顔を覆って、ベッドに仰向けになっていた。落ち込んでいるその姿に、胸が痛む。

「兄貴、元気出してよ。兄貴には、私がいるじゃん。私はいつとも、兄貴の傍にいるよ」

ベッドの横にそつと座り、兄貴の体を抱きしめる。私がつけた傷が、少しでも癒えるようにと願いながら。

「ゴメンな。妹に慰めてもらうなんて、兄失格だな」

少し落ち着いたら、兄貴は最初にそう言った。私は気にしてなかったけど、でもこれはチャンスかもと思い、兄貴の机の上にあつたペアチケットでデートに誘ってみる。結果、快諾してくれた。とても嬉しい反面、まったく異性として見られていないことにショックを受ける。お泊りデートなのに…。

そう考えたらこのままではいけない気がして、だから私は深呼吸して覚悟を決めて、兄貴の方にグツと身を乗り出して、そして、

唇に、温かい感触が広がった。

顔が爆発しそうなくらい熱くなった。それで焦ってなんか色々言っちゃって、そして自分の部屋に逃げ帰ってきてしまった。そのままの流れでベッドに突っ伏す。でも心臓はまだ壊れそうなくらい早鐘を打ってて、明日どんな顔して兄貴と会えばいいか分からなくて、頭はまだパニック状態で、

とりあえず、今夜は眠れそうにない。

「デート前日の兄妹」



どうして、おさがりなの。

妹あるある



僕 「おはよう。早いね。」

僕 「朝ごはんはちゃんと食べておきなよ。」

僕 「雨、止んだみたい。傘は必要なさそうだね。」

僕 「昨日のドラマ面白かったね。」

僕 「学校は最近楽しい？」

僕 「あ、今ポテト安いらしいね。」

僕 「行ってらっしゃい」

挨拶くらいしてくれてもいいのに。



妹の死

妹がオオアリクイの雌に食べられて、もう二年がたった。岡山県に家族旅行に行った時のことだった。あんな元気だった妹も今ではもういないのだ。

妹の趣味はアリを育てることだった。

メスシリンダーにアリをいれ、学校にも持っていき友達に見せびらかせていた。しかしそんな妹を学校の友達は受け入れられなかった。

そうしてだんだんと妹は学校に行きづらくなっていった。

そんなある日、一番のお気に入りのアリである「舞★ゴツド」をピンク色のメスシリンダーに入れて持って行った時のことだった。

その日は暑い日だったのでみんなのどが渴いていたのだったと思う。

理科の授業の実験中、突然一人の生徒がフラスコの中の塩酸を飲みだした。

それがきっかけでみんな我先にとフラスコやビーカー、試験管の中身を飲みだしたのであった。教室は戦場だった。

そのうち、一人の生徒が妹の持っているメスシリンダーに気づき、中身を飲むとした。

妹は何とか止めようとしていたが、結局その生徒に妹のお気に入りのアリは飲まれてしまったのだった。

そんなことがあり妹は学校に行くことがトラウマになってしまった。

そんな妹に気分転換してもらおうと両親は妹を旅行に連れて行った。

妹は大好きなアリをみんなフラスコに詰めて旅行に行った。

旅行先でも妹は肌身離さずフラスコを持っていた。

ある森で妹はフラスコを落として割ってしまったのだった。

割れたフラスコから漂う芳醇なアリ臭につられてオオアリクイが引き寄せられてしまったのだった。

そんなオオアリクイからアリたちを守って妹は食べられてしまったのだった。もし妹がアリを飼わなかったら、もし妹がアリを学校に持っていかなかったら、もし友達が塩酸と間違えてアリを飲まなかったら、もし岡山県にオオアリクイがいなかったら、妹は死ななかったのかもしれない。



○月×日

明日はおねえちゃんとデート！

おねえちゃん就活で忙しかったから、久しぶりのおでかけ！

どこ連れてってくれるかはなしよだっ てー楽しみだなあ

でもおねえちゃん、おねえちゃんは私が楽しめるように場所を考

えてくれてるみたいだけど、おねえちゃんと一緒なら私はどこで

もいいんだよ

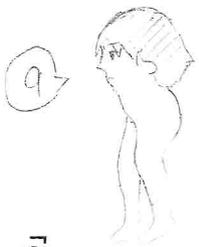
私のためにいろいろ考えてくれてるおねえちゃんかわいいから

何も言わないけどね

ちょっと早いけど、明日のためにもう寝よう！

楽しみで寝られないかも！小学生の遠足前日みたい(笑)

おやすみ



「おにいちゃん！」

なんか背筋がゾクツとした。まあ、答えなくてもいいだろう

「なにだまじろのっちやんちゃん！」

もう、こいつの趣味に付き合うのは飽きた

「お、聞こじろのっちやんちゃん。」

最初の頃は目新しいと思っただけど、今はそう思えない

「ほ、まじろのっちやんちゃん。せなかへ準備したのっちやんちゃん。」

やった、やつと引いてくれたか…準備だと…なんの準備だ？

「…おにいちゃん。思ってたより最近研究したんだやんちゃん。」

最近あいつはそんなことしていたのか

「驚かしたななななな…すっぴんをいじってっつて…」

これだけ聞くと可愛いんだけど…

「まっ、知らないんだななな！」

部屋に戻ったか。はあ、あいつもまともに育てていればこんなことはなかっただろうに。なんであんな趣味を持っているんだろう。やつぱり「かわいい」って言いすぎたかな。それにしても、気付かれないように見ていたあいつの姿は、ほんとに美少女のようだったな…。

俺の妹は少し変わってる



1

「
M
Y
・
妹まい
」

か	マ	マ	お	マ	マ	我	マ	マ	妹	マ	マ
わ	イ	イ	め	イ	イ	が	イ	イ	さ	イ	イ
い	マ	マ	め	マ	マ	家	マ	マ	ん	マ	マ
い	イ	イ	の	イ	イ	の	イ	イ	だ	イ	イ
子	((丸	((乙	((よ	((
だ	マ	マ	い	マ	マ	女	マ	マ		マ	マ
よ	イ	イ		イ	イ	っ	イ	イ		イ	イ
	マ	マ		マ	マ	子	マ	マ		マ	マ
	イ	イ		イ	イ		イ	イ		イ	イ
))))))))

2

綺	マ	マ	と	マ	マ	み	マ	マ	妹	マ	マ
麗	イ	イ	っ	イ	イ	ん	イ	イ	さ	イ	イ
な	マ	マ	て	マ	マ	な	マ	マ	ん	マ	マ
娘	イ	イ	も	イ	イ	大	イ	イ	だ	イ	イ
だ	((優	((好	((よ	((
よ	マ	マ	し	マ	マ	き	マ	マ		マ	マ
	イ	イ	い	イ	イ	よ	イ	イ		イ	イ
	マ	マ		マ	マ		マ	マ		マ	マ
	イ	イ		イ	イ		イ	イ		イ	イ
))))))))



「合格、おめでとう」

引越しに向けて、玄関に立つ兄に声をかける。兄が返した、照れているような、浮き足立ったような、そんなはにかみは、今まで見てきた彼の癖とまったく変わらないものだった。

物心が着く前から、物心が着いた後から。十数年間、一番身近な存在だった兄は、ずっと離れた場所の大学に合格した。第一志望、第一志望と言いつつ続けてきた彼がその願いを叶えたことは嬉しい。

「まったく、部屋を散らかしっぱなしで。後が大変でしょ」
合格が決まってから引越しまでの二週間、家の中は大騒ぎだった。お母さんは変な料理ばかり作るし、お父さんはお祝いとか言いながらやっぱり変なものばかり買ってくるし。半分あきれながらその光景を見ていた私だけど、多少浮き足立っていたらしく、周りから浮かれているとはよく言われてしまった。

でも、明日から、身近にいた兄という存在は遠く、遠くに行ってしまう。その寂しさに押しつぶされないように、笑いながら兄を見る。兄には、合格の喜びだけを持って、出発して行ってほしい――

「あ、車」

両親が出した車の音が聞こえる。そちらへ向かって行く兄を見送りながら、上を向いて、つぶやいた。

――ぜったい、また会おうね。

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	妹を持つ者の意見	4 pt	6 位	1 sp
		<p>「本のまくらだー」とTAさんたち。そんな書店イベントがあったのです。文庫本の冒頭だけ見せて選んでもらう、っていう。 このまま商品でも行けそうなインパクト大のフレーズで今週のスタートです。 特別賞：その通りで賞 from E班（その通りだと思った） イチオシフレーズ：「一方で僕は優しいお姉ちゃんが欲しい。」×2</p>		
02	【妹】	9 pt	3 位	0 sp
		<p>妹の定義をしてみました。リアルと妄想とこうして並べてみると、まあどっちもバッドエンドなんですよ。じゃあ、いなくてもいっか、と励ましメッセージとして受け取ってみたりして。 つくりのていねいさが評価されてブロンズ・メダルです、おめでとう！ イチオシフレーズ：「大きな出費の予兆である。」</p>		
03	妹は四番・キャッチャー	4 pt	6 位	0 sp
		<p>これはすてきなミスリード。「妹」という単語でふくらんだ妄想が、さいごにぐしゃっと潰れるところが、ほんとに痛快。 お題のズラシかた、そして話の運び方、さすがだなあ。 イチオシフレーズ：「髪型？坊主だよ」</p>		
04	デート前日の兄妹	13 pt	1 位	0 sp
		<p>まったく黒い妹さんですね。でもって、このロング・ストーリーはどんな結末を告げるのでしょうか。刃物や悲劇は見たくないのですが。 ともあれ良作いならぶ長文どもを蹴散らしての本選入り、そして記念すべき初のゴールド・メダル、おめでとう!!!</p>		
05	妹あるある	1 pt	10 位	0 sp
		<p>1 行に勝負賭けましたね。 全体としては合理的なのだけれど、本人にとっては不合理極まる選択。魂の叫び的な。実体験でしょうか？</p>		
06	妹	6 pt	4 位	2 sp
		<p>さあて、この無言の妹はリアルか妄想か？ リアルなら無愛想で不機嫌な妹さんが、妄想ならパソコン画面の微笑みが浮かんできます。いろんな読みを喚起する、心憎い演出でした。 特別賞：自演で賞 from F班（僕が妹のセリフまで言っている様に見えた） Schrodinger's cat賞 from G班</p>		
		5 pt	5 位	2 sp
		これは、スゴい!! まじめ顔で言うジョークが超おかし		

07	妹の死	<p>いように、まじめ顔で塩酸飲んだり、オオアリクイがのそのそ登場したり。 まじめ顔のファンタジー。悲しいのかおかしいのかりアクションに困るシュールさが絶品でした。話題を集めて、今週のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう!! 次もまじめな話をお願いします!</p> <p>特別賞：右上が可愛いで賞 from C班 (突然の妹 ぎざぎざしたやつ) よく書き切ったで賞 from I班 (よく書き切った!)</p> <p>イチオシフレーズ：「芳醇なアリ臭」「塩酸を飲みました」「塩酸と間違えてアリの飲む」</p>
08	Diary	<p>0 pt 11 位 1 sp</p> <p>かわいいフォントと口調のおかげで、おねえちゃん大好きな気分がさっくり伝わってきます。 ストレートな感情表現がほほえましいなごみスポットでした。 特別賞：何歳なので賞 from H班 (内容的に中学生以上なのに、文章が幼いから。)</p>
09	俺の妹 (おとうと) は少し変わってる	<p>3 pt 8 位 1 sp</p> <p>「美少女」の、たったひとことがそそりますねえ。どんなコスプレだったのか、まったく描写されていないぶん、より想像が刺激されます。 特別賞：SOS賞 from A班 (筆者がSOS団っぽいし頭もSOSなのでは……) イチオシフレーズ：「もう、知らないんだから！」</p>
10	MY・妹	<p>2 pt 9 位 3 sp</p> <p>歌詞、入ります。ふんわりマシュマロのように甘やかなイメージ。リズムも字数もキレイに揃って、いい仕上がり。 歌って欲しいの嵐で最多特別賞でした。おめでとう!! そして、宣言通りのお茶会での熱演、ありがとう!! 特別賞：Jo-Yで配信しよう from B班 (歌いたい) 新秋シャンソン賞 from D班 (いい歌ですねえ~) 作者のかたに歌ってもらいま賞 from J班 (せっかくですから、ねえ) イチオシフレーズ：「マイマイ」</p>
11	春	<p>13 pt 1 位 0 sp</p> <p>兄から見た妹が多かったなか、妹から見た、という視点チェンジが新鮮でした。 見送る気持ち、しっとりと叙情ゆたかに仕上がって、もはや安定のゴールド・メダルです、おめでとう!!! イチオシフレーズ：「あ、車」</p>